

Q 原子力防災センターとは、
どんな施設ですか？



A 富士山静岡空港に隣接する原子力防災センターは、環境放射線監視センターとオフサイトセンターが併設する原子力防災の拠点施設です。

環境放射線監視センターは、浜岡原子力発電所周辺の環境放射線モニタリング等を行う施設です。モニタリングの結果はこの原子力だよりやホームページ等で公表しています。

一方、オフサイトセンターは、浜岡原子力発電所で緊急事態が発生した場合に、国、県、市町等の関係機関が集まって、連携した応急対策を講じるための施設です。約300人が活動可能で、テレビ会議システムを備えた合同対策協議会室など、様々な設備が備わっています。

原子力防災センターの建物は、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえて、極力窓を少なく、壁を厚くして放射線の透過を防いだり、放射性物質除去フィルター設備で放射性物質の侵入を防いだりするなど、様々な工夫がなされています。

原子力防災センターは一般公開されています。是非、実際にご覧ください。

(見学時間：平日午前9時30分から午後4時30分)



図1 原子力防災センター 外観



図2 原子力防災訓練の様子(令和7年1月)
【静岡県オフサイトセンター】



図3 環境試料の放射能測定設備
【静岡県環境放射線監視センター】

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(令和7年7月~9月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、令和7年12月26日現在、3号機、4号機及び5号機については定期事業者検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局
静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス：<https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/1003618/1030308.html>



静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス：<http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp/radiation/home.html>



この印刷物は7,500部発行し、1部あたりの制作・印刷経費は6.6(小数点第2位四捨五入)円です。

原子力だより No. 207



10月20、21日に原子力防災センター(牧之原市坂口)において、内閣府主催のオフサイトセンター図上演習が実施されました。国、県、市町及び事業者等の要員が参集し、原子力発電所の事故の進展に合わせた対応を訓練しました。

令和7年7月~9月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

令和7年7月から9月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故や過去の核爆発実験等による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。(詳細は次ページ)

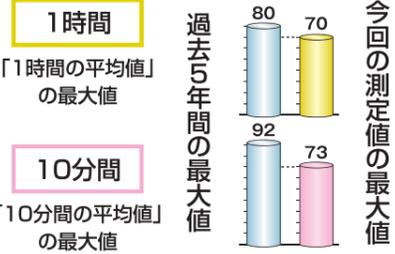
令和7年7月～9月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

空間の放射線の測定 (1時間平均値および10分間平均値の最大値)

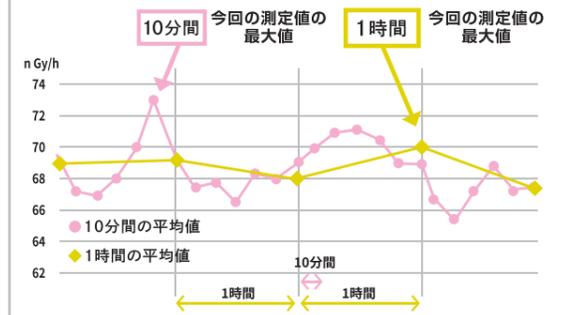
モニタリングステーション(14か所)において、常時、空間放射線の量を測定しています。令和7年7月から9月の間の測定結果で過去5年の最大値を超えた地点はありませんでした。測定された値は、東電事故等の影響は認められず、自然放射線由来のものです。

グラフの見方

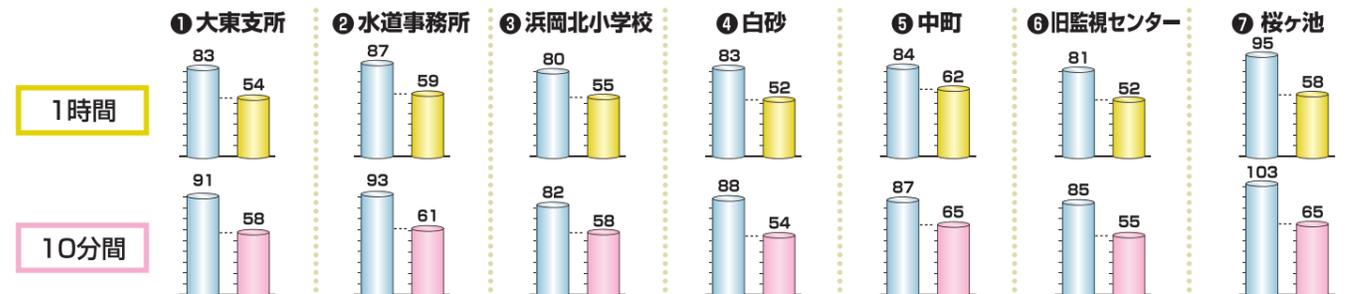
単位:ナノグレイ/時



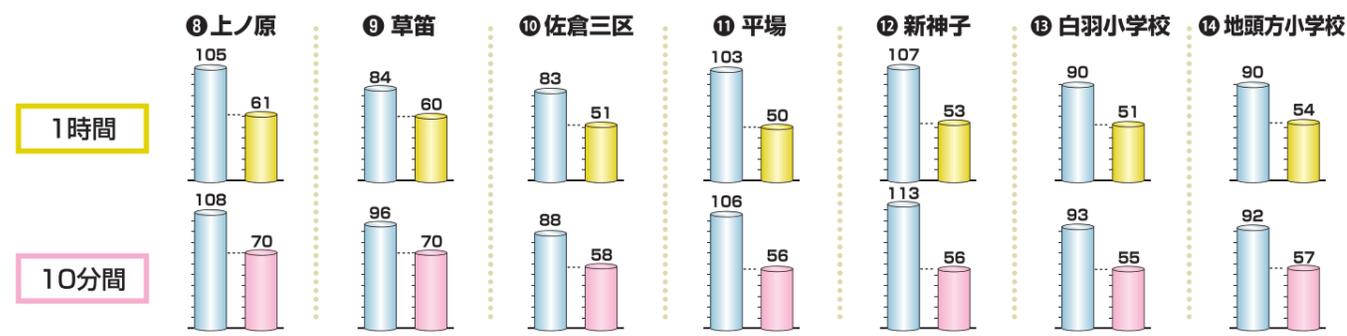
グラフの値について



期間中に測定した空間放射線の線量率を、1時間毎、10分間毎に平均して算出し、その中で、最大になったものを表記しています。被ばく線量の推定や評価のため「1時間の平均値」を用い、放射線量の変動をより細かに知るために「10分間の平均値」を用います。(左の図のように10分間の最大値の方が、1時間の最大値より値が大きくなります。)



モニタリングステーションの配置図



測定結果から、自然放射線による外部被ばく線量は、年約0.29mSvと推定されます。(日本平均約0.33mSv、世界平均約0.48mSv*)
*生活環境放射線(国民線量の算定)第3版 令和2年11月(公益財団法人 原子力安全研究協会)から引用

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。令和7年7月から9月の間に測定した試料の一部*は、過去(震災前)5年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準*等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

*測定した9試料28検体のうち、1試料1検体(原乳1検体)

*食品衛生法に基づく基準値(参考欄参照)

代表的な試料の放射性セシウム(Cs)の測定値の最大値



代表的な試料の放射性ストロンチウム(Sr)の測定値の最大値



参考 食品衛生法に基づく食品の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値(Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

放射能調査に用いる単位

- グレイ (Gy) ……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
 - シーベルト (Sv) ……吸収線量を元に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
 - ベクレル (Bq) ……放射能の強さを表す単位
- 《参考》 ミリ (m) ……1/1,000 千分の1
 マイクロ (μ) ……1/1,000,000 百万分の1
 ナノ (n) ……1/1,000,000,000 10億分の1